

宍道湖の風が体を吹き抜け
心洗われる弥生の丘

国指定史跡
田和山史跡公園



2008

松江市教育委員会

田和山史跡



～弥生の住居空間を体感する～

西側住居部

田和山遺跡の中で最大の建物跡が見つかっています。
ここでは竪穴住居と掘立柱建物が復元されています。

遺跡の概要

名称	田和山遺跡(名称:「田和山史跡公園」)
所在地	松江市乃白町32-3
指定年月日	平成13年(西暦2001)8月13日
指定区分	国指定史跡
指定面積	16173.33㎡
概要	時代 弥生時代
	種別 集落跡、その他(環壕部)
	遺構 環壕、柱穴、加工段、自然流路、竪穴住居跡、掘立柱建物跡等
遺物	弥生土器、土製品、石戈、石剣、石鏃、つぶて石等
遺跡の特徴	柱穴群を柵で囲んだ山頂部と、それを取り囲む3重の環壕部。さらにその外側に加工段と住居跡群が存在する。
特徴のある遺構	山頂部: 柵跡、5本柱遺溝、9本柱遺溝 環壕部: 長さ200m以上の3重環壕 環壕外: 加工段及び住居跡

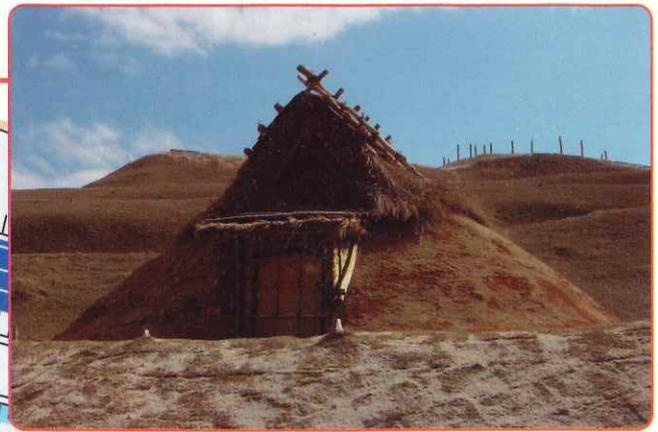


～田和山独特の
三重環壕を体感する～

環壕部

三重にめぐらされた大きな溝“環壕(かんこう)”が体感できるゾーンです

公園全体図



～弥生の住居空間を
想像・学習する～

北側住居部

20棟を超える弥生時代から古墳時代にかけての住居跡が見つかっています。
ここでは1棟の竪穴住居が復元されています。



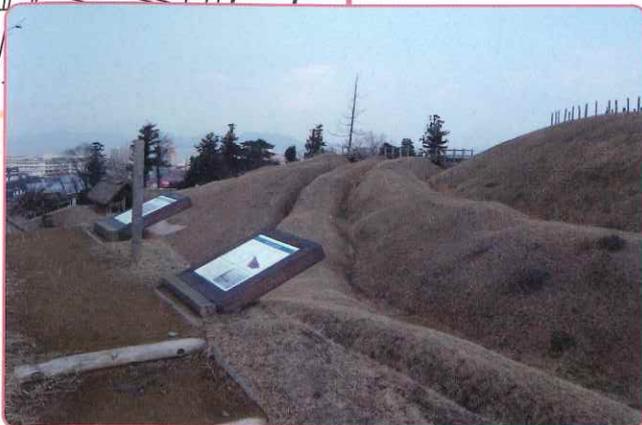
～眺望を楽しみ、
弥生時代に思いを馳せる～

山頂部

柵に囲まれた山頂では、5本と9本の柱のまわりが見つかり、柱が見つかった位置を立上表示しています。
ここからは宍道湖と島根半島を見渡す素晴らしい景色が見られます。

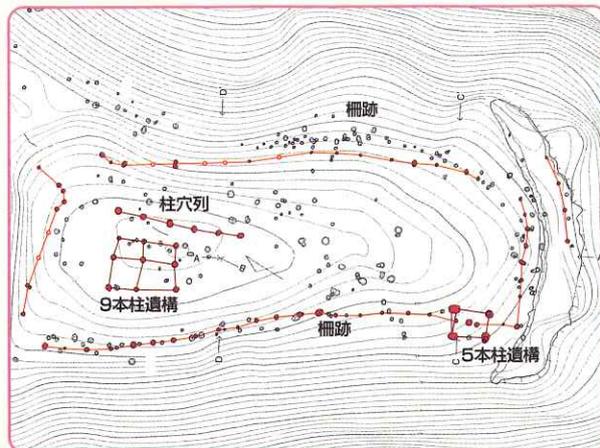
南側展望所

ここから田和山の生い立ちが分かる玄武岩の貫入がみられます。



山頂部

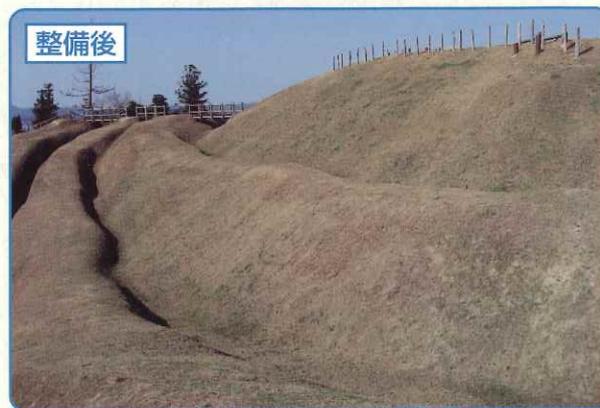
～眺望を楽しみ、弥生時代に思いを馳せる～



山頂部は、田和山遺跡の魅力、謎がたくさん詰まったゾーンです。南東の斜面には5本の柱のまとまり(5本柱遺構)があります。山頂の周りに柵がつくられ、北側の一番標高の高い場所に、9本の柱のまとまり(9本柱遺構)があります。

環壕部

～田和山独特の三重環壕を体感する～



環壕部は、田和山遺跡を最も特徴づけているゾーンです。

田和山遺跡の環壕が囲んでいるのは狭い山頂で、住居跡などは環壕の外にあります。この点がとても珍しく、何のためにこれだけ大きな溝を3本も掘ったのかは、今も研究中です。

環壕観察場(写真右)では、発掘調査のときの様子を再現しています。土色で表現した環壕の底には、つぶて石とよばれる投石用の石を復元しています。



北側住居部

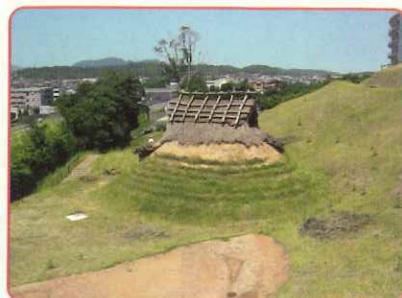
～弥生の住居空間を想像・学習する～



焼失住居(SI-09)



復元住居(SI-03)



北側住居部は、田和山遺跡で最も住居跡がたくさん見つかったゾーンです。三重の環壕がつくられた弥生時代中期の竪穴住居が8棟、掘立柱建物が11棟見つかっています。

西側住居部

～弥生の住居空間を体感する～



復元された建物



西側住居部は、田和山遺跡の中では最も山頂部がよく見えるゾーンです。ここでは弥生時代中期の竪穴住居が1棟、掘立柱建物が5棟見つかっています。

北側住居部に比べて建物の数は少ないのですが、大型の建物が目に付くのが特徴です。

これらの建物の性格や用途を考えるのにポイントとなるのは、その立地条件で、西側住居部は山頂を望む絶好の場所であると言えます。

柵で囲まれた山頂が容易に近づくことが出来ない空間であったとすれば、通常は山頂がよく見える西側住居部から選好していたのではないかと考えられます。そう考えると、これらの大型建物は選好所のような性格があったのかも知れません。

田和山の成り立ち

田和山が出来上がった原因の一つに、玄武岩といわれる、岩の大きな層が、隆起して(貫入)この山をつくりあげたと考えられています。

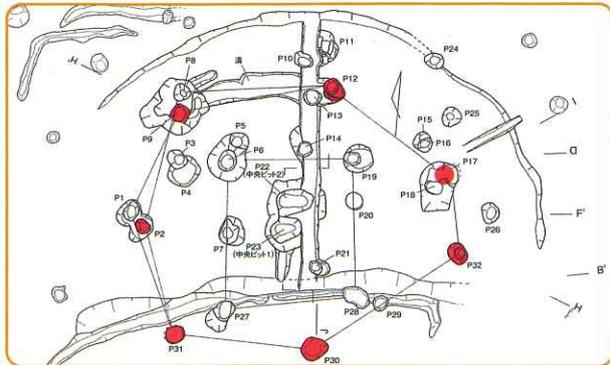
発掘調査時に土器川周辺で見られた湧水は、地下水がこの岩脈を伝って流れ出したものです。

また、環壕で見つかったつづて石の中にはこの玄武岩を使ったものが見られます。



住居跡の復元工事について

1 遺構の検討



発掘時の遺構は床面が一部流失していましたが、長径約8m、短径約6.6mを測る楕円形の床面で、7本の柱を持つ住居跡であることが判りました。

4 復元工事

竪穴住居 (SI-01)の復元

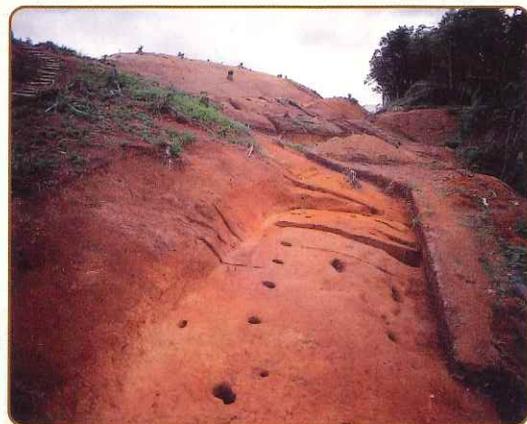
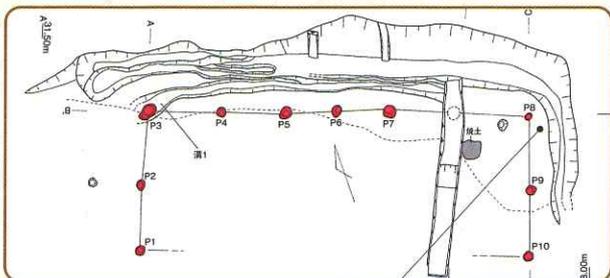


田和山の焼失住居から出土した炭化材の鑑定により、当時はスタジイを使っていたことが判っていますが、復元にあたっては入手しやすく、湿気に強いクリの木を使っています。



柱を7本建てて、その上に梁を載せます。柱の太さは約20cmで復元しています。梁の高さは2.4mに設定しています。

1 遺構の検討



発掘時の遺構は床面が一部流失していましたが、桁行き約6間(9.85m)×梁間2間(約3.55m)を測る長棟の掘立柱建物であることが判りました。

SB-02は、田和山遺跡中最大の掘立柱建物です。柱間が中央では狭く、外側が広い点に特徴があります。また、全国的に出土例の少ない「台形土器」が見つかったことや、立地の優位性などから、山頂をのぞむ「選拝所」のような建物ではなかったかと考えられています。

4 復元工事

掘立柱建物 (SB-02)の復元



柱を14本建てて、その上に桁を載せます。柱の太さは14~20cmでクリ材を使っています。梁の高さは2.1mに設定しています。



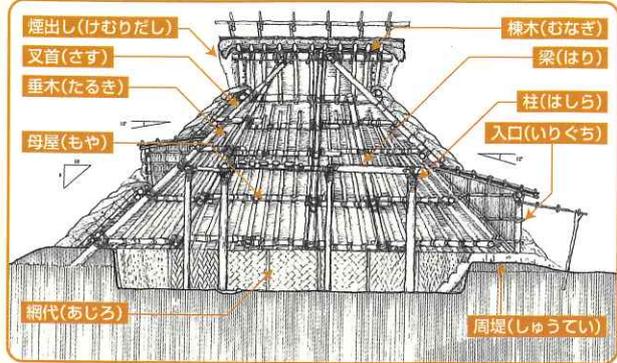
両妻側中央の柱は棟持柱で、棟木を支えます。棟の高さは4.2mに設定しています。

2 遺構図を基に模型を作成



竪穴住居を復元するには、まず模型を作って上屋の検討を行います。
1/10の遺構図の上に柱を建て、サスを組んで屋根の構造を検討します。
また、弥生時代中期はまだ鉄製の工具が普及していなかったと想定して(実際田和山では鉄製品が検出されていません)、石器で加工できる程度の仕口(ホゾを使わず、梁は叉木の柱で受けるなど...)で復元しています。

3 模型から設計図を作成



サス⇒母屋⇒垂木の順に架けます。
サスの勾配や架け方は屋根の形状や、構造の全てに関わってくるので非常に慎重な作業が必要になります。



茅葺きは最下段だけは穂を上に向ける「本葺き」で葺き、2段目からは穂を下に向ける「逆葺き」で葺きます。

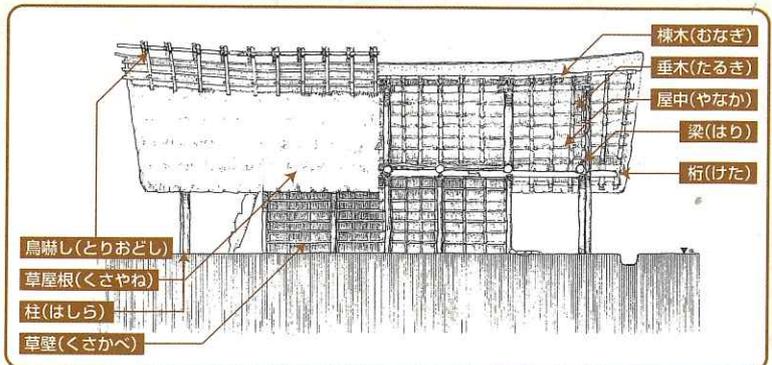


完成

2 遺構図を基に模型を作成



3 模型から設計図を作成



棟木は3本をつなぎ、両端を反らせています。
垂木や屋中を架けて屋根の形を作ります。



茅葺きは穂を下に向ける「逆葺き」です。



完成

山陰の 弥生遺跡マップ



ご利用案内

開園時間 日出から日没まで。暗くなってからの入園は大変危険ですので、ご遠慮ください。

休園日 休園日はありません。いつでもおこしく下さい。

入園料 入園料は無料です。

ガイド 田和山史跡公園では、田和山サポートクラブの皆さんによるガイドを行っています。団体ガイドご希望の方は、事前に文化財課(0852-55-5284)までご連絡ください。

駐車場 西側入口周辺の駐車スペースには限りがございます。ご了承下さい。

アクセス情報

JRの場合

山陽新幹線・岡山駅～伯備線～山陰本線・松江駅(特急利用約2時間30分)松江駅～田和山遺跡(路線バス・市立病院行き約15分)

車の場合

[高速] 中国自動車道・落合JCT～米子自動車道・米子IC～山陰道(一部有料道路)・松江西ランプ下車すぐ
[一般道] 国道9号線バイパス～田和山遺跡

飛行機の場合

[出雲(松江)空港までの飛行時間]

東京・羽田空港から1時間20分。大阪・伊丹空港から1時間。福岡空港から1時間10分。空港バスで「出雲空港」～「松江駅」(約25分)

[米子空港までの飛行時間]

東京・羽田空港から1時間20分。大阪・伊丹空港から1時間10分。福岡空港から1時間10分。空港バスで「米子空港」～「松江駅」(約45分)



お問い合わせ先

松江市教育委員会文化財課

〒690-8540 松江市末次町86 (電話)0852-55-5284(調査係)・5294(文化財係) (FAX) 0852-55-5571

e-mail: bunkazai@city.matsue.lg.jp ホームページ: http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/bunka/bunka/bunkazai/tawayama_park/index.htm